

造林学特論 (2単位)

担当者氏名 佐藤明・上原巖・菅原泉

◆学習・教育目標

造林学とは、優れた遺伝的形質をもつ林木を更新させ、林地のもつ生産力をもっとも有効な形で持続的に利用して、森林を育成する方法を明らかにすることである。そのためには森林を取り巻く林木、立地、生物とそれらの相互関係についての広範な知識を総合的、多角的に理解、修得することが望まれる。また、森林における樹冠閉鎖の効果、樹種の組成、林冠の構造など、造林の基礎になる森林の構造について知識を修得し、森林の有する多面的機能を発揮させる自然状態あるいは人為による森林の更新方法、及び多様な森林の育成方法の技術について院生自らが進んで学び、講義における担当教員との論議を含めて習熟を図る。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

| | | | |
|------|-------|------|------|
| 造 林 | 有用樹木 | 立地環境 | 物質生産 |
| 更新技術 | 森林生態系 | 育成技術 | 物質循環 |

◆授業の進行等について

| | テーマ | 内 容 | 授業のねらいまたは準備しておく事項 |
|---|-----------------------|---|--|
| 1 | 天然林と人工林 (第1～3週) | ・天然林と人工林の樹種構成、林冠の構造、遺伝的構造などの違いを修得 | 造林学は生理・生態的な見方、流通・経済的な見方、さらに作業・労働的な見方を必要とし、そうした多面的な見方を総合的に捉え、内容を分析し、あるべき姿の森林を育成していくことが求められる。そのため、大学院生自らが理論を修得するとともに実践を積める場とした。また、論文作成の一助とするために、英文テキストを随時使用し、この分野の基本用語の的確な理解を図るとともに、新たな知見の修得を図る。 |
| 2 | 森林の更新 (第4～6週) | ・立地環境や経営目標の違いに応じた更新方法を修得 | |
| 3 | 育苗 (第7～8週) | ・種子の取り扱いから育苗に至る過程について修得 | |
| 4 | 種間競争 (第9～10週) | ・種間競争に関する基礎的な知識を深めるとともに、適正な緩和技術を修得 | |
| 5 | 種内競争 (第11～12週) | ・種内競争に関する基礎的な知識を深めるとともに、適正な緩和技術を修得 | |
| 6 | 多様な森林の育成 (第13～15週) | ・複層林、混交林などの多様な人工林について、基礎的な知識を深めるとともに、適正な育成技術を修得 | |

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

担当教員より事前に周知する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

担当教員より事前に周知する。

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

教員と学生、学生同士の討論内容（50点）、レポート等の課題（50点）。

◆その他受講上の注意事項

教員から教わるのではなく、自ら進んで学び、あるべき姿の森林の育成方法を提示するという態度で授業に参加して欲しい。